

平成 24 年度南丹地区学校安全研究協議会を開催しました

平成 24 年度南丹地区学校安全研究協議会が開催され、管内の幼稚園・小学校・中学校・府立学校をはじめとし、各教育委員会などから約 70 名の学校関係者が参加しました。

今年の協議内容は「交通安全」をメインテーマとし、児童・生徒が交通事故を起こさない・被害に遭わないための安全教育について理解を深めました。



課題提起

◆南丹教育局 指導主事 白波瀬 和彦

管内の各幼稚園・小・中学校の事故災害の発生状況などを分析したところ、今年度は特に交通事故による被災が増加しており、前年度比およそ 2 倍となっていることがわかりました。



講演・交通安全教育の進め方

◆京都府警察本部交通部交通企画課交通事故防止対策室

室長補佐 梅津 康彦 様
自転車交通安全対策係長 野々村 孝雄 様



京都府警察本部がまとめたデータによると、小学生は飛び出しによる事故が圧倒的に多く、中学生は自転車運転中や安全不確認による事故が高い割合を占めています。そして、夕方 4 時以降の事故件数が全体の約半分を占めており、下校の時間帯には特に気を付ける必要があることがわかりました。

また、京都府警察では交通安全教室をはじめ、自転車運転免許教室を開催しておられ、その授業の中では傘差し運転などの危険運転体験や、安全走行能力のテストなどが行われているそうです。

◆亀岡市立川東小学校 教諭 久保 典明 様

駐在所の方や民生児童委員さんなどをはじめとした各地域関係団体や、児童数よりも多い地域安全見守り隊の方々の協力のもと、毎日の登下校の見守り等が行われています。

また、不審者対応型避難訓練では駐在所の方を招き、手をつかまれたときに振りほどく方法を教職員が研修するなど、万が一の事態に備えて訓練されているそうです。

子どもたちの安全を守るためには自分自身だけ・学校だけが気を付けるのではなく、こういった地域の方々との密接な関係を築き、社会全体で守っていくことが大切であると実感できる発表でした。



実践発表・安心安全な学校づくり
地域に支えられて

《参加者の感想》

- 交通安全指導の視点として、自分の身は自分で守るという自立の力を育み、事故や被害に遭わない工夫・行動を考えさせることが重要であると認識した。(講演)
- 学校と地域とのつながり、人と人とのつながり、児童と地域とのつながりが本当に大切であることがよくわかった。(実践発表)

